

書道学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

書道学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（書道学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し考察することができる。
- (2) 書作と書学の両面においてバランスのとれた基礎力と応用力を身につけている。
- (3) 豊かで幅広い教養と高い倫理性を身につけている。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を身につけている。
- (2) 書の素晴らしさを感じ取り、その感動を人に伝え指導することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 現代社会における「書」の文化的役割や機能を主体的に担い、推進する能力を身につけている。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 建学の精神である漢学の振興に基づき、グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を身につけている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

書道学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 書道学科は、書作と書学からなる書道学を体系的に学ぶために書作と書学の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける。
- (2) 外国語科目においては、1年次の必修科目「中国語学基礎演習1・2」と2年次の必修科目「中国語学基礎演習3・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める。
- (3) 全学共通科目においては、「文学A・B」「歴史学A・B」「情報科学A・B」といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
- (4) 初年次においては、必修科目である「書道学基礎演習」の履修を通して、書道学の学修に必要な基礎力を養成する。
- (5) 必修科目群では、初年次において「楷書法1（書写を含む）」「行草書法1（書写を含む）」「仮名書法1（書写を含む）」といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また「日本書道史通論」「中国書道史通論」を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに2年次では「書学基礎研究1・2」といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する。
- (6) 選択科目群では、2年次において「漢字仮名交じりの書法1」「篆刻法」といった科目の履修を通し

て漢字仮名交じり・篆刻等の書表現をも修得する。また2年次の「書跡文化財学概説」や3年次の「書論講読」等により書論・書跡等の研究能力を育成する。

- (7) 選択科目群では、「書道美学論」「中国美術史」「日本美術史」「日本文学史概説 A・B」といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする。
- (8) 選択科目群では、「日本文化実地演習」といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに「漢字文化実地演習」の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める。
- (9) 各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、3年次よりすべての学生が書作ゼミと書学ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している。
- (10) 4 学年においては、それまでに修得した能力を発展・応用させて「卒業論文」と「卒業制作」としてまとめる。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 3年次より書作ゼミ 1、書学ゼミ 1 の 2 つのゼミの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
- (3) 2年次では国内、3年次では海外の体験学習を含む授業の受講を積極的に推奨している。
- (4) 1年次と2年次には学内ギャラリーで「秋季展」を開催。また1年次はこれに加えて「新入生歓迎展」を開催し、段階的な学修成果の発表の場を設けている。
- (5) 学外の美術館・ギャラリーで3年次には「ゼミ制作展」、4年次には「卒業制作展」を開催し、学修成果の発表の場を設けるとともに展覧会運営のプロセスを学ぶ機会を取り入れている。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA 等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、学期毎に成績不振者に対して教員による個人的面談を実施する。
- (3) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文・卒業制作の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

書道学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 書作を専門的に学ぶのに必要な基礎的な技法を身につけている。
- (2) 書学を専門的に学ぶのに必要な基礎学力を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 倫理的な思考力を身につけている。
- (2) 修得した技法、学力、知識を多角的に表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 自ら主体的に学ぶとともに、他者とも積極的にかかわることができる。
- (2) 書が大好きで、強い意志と高い目標を持って努力することができる。
- (3) 向学心の旺盛な人で、芸術文化に対する愛好心を身につけている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3 教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (指定校)	調査書	●		
	事前課題 (作品・小論文)		●	●
学校推薦型選抜 (スポーツ)	調査書	●		
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		
	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	調査書	●		
	学力試験(書道実技)	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●